

# プロマネ向け アジャイル研修のご紹介 ～あなたのプロジェクトを成功に 導くための理論と活用～

株式会社 富士通アドバンストエンジニアリグ  
S I サポート本部

こはら  
小原 由紀夫, PMP

# ～自己紹介：小原由紀夫～

株式会社富士通アドバンストエンジニアリング  
シニア・プロフェッショナル

こ はら  
**小原 由紀夫, PMP**



1983年富士通入社、出向、  
転籍を経て現職。20年間、日本の電機・自動車のグローバル企業の工場システム構築にベンダーのプロジェクトマネージャとして参画した。グローバルPMMソッドを普及し、TPSのセミナーと実践支援をしている。PMP。PMAJ会員。PMI会員。  
PMAJ-IT-SIG    TPSに学ぶPM-WG主査。

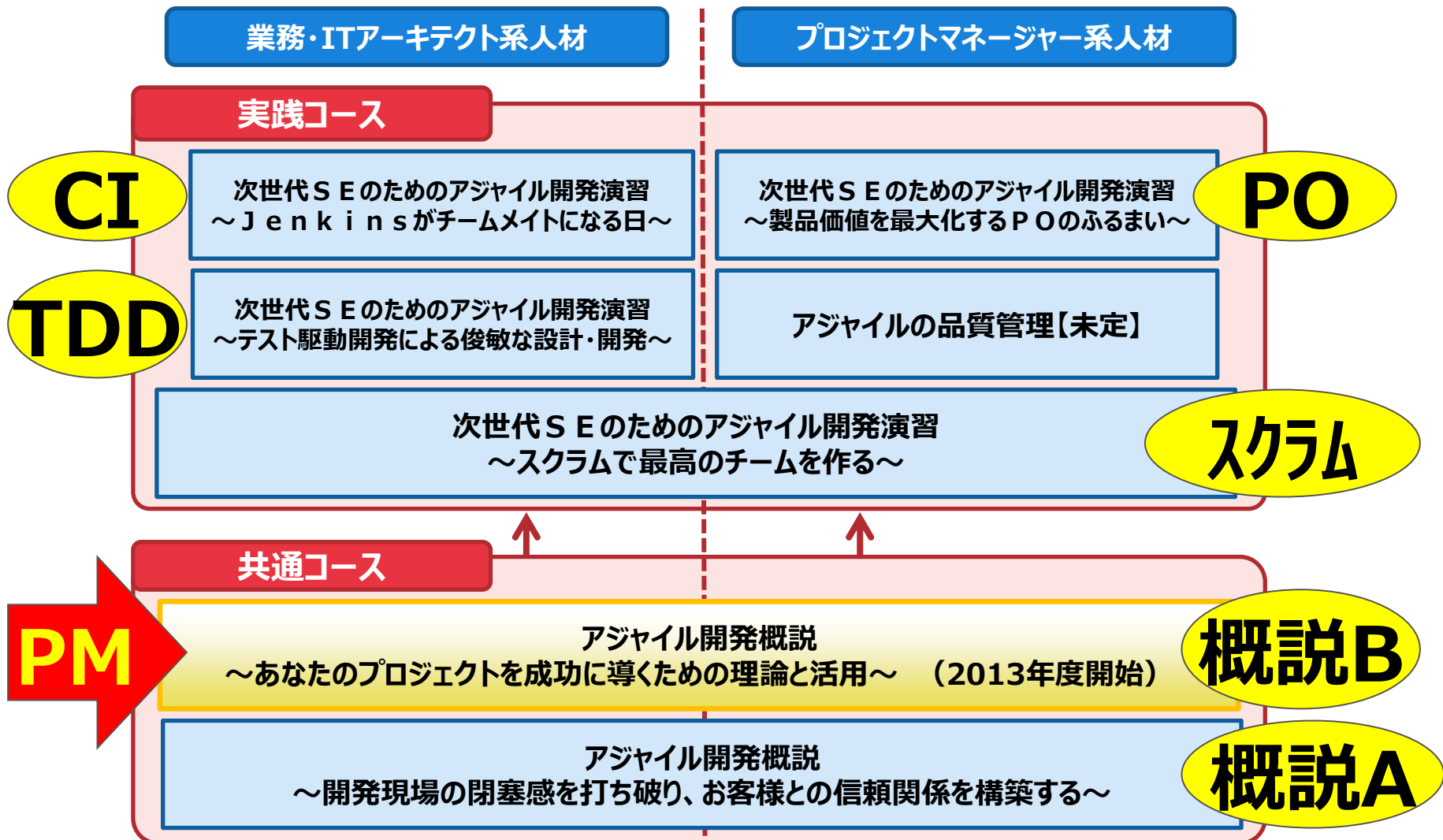
米国ケイデンスマネジメント社認定講師

- **富士通におけるアジャイル教育体系**
- **プロマネ向けアジャイル研修の概要**
- **P Mへの期待**

# 1. 富士通が提供するアジャイル開発教育

## アジャイル開発の幅広い要素を網羅

通称



# 2. 1 プロマネ向けアジャイル教育の概要

はじめに

第1章 お客様の立場で考える

第2章 変化に対応する

アジャイル開発

第3章 お客様へ提案する

第4章 プロジェクトを運営する

第5章 お客様とともに

リーンソフトウェア開発  
アジャイル開発を実践する  
22の方法 (2004/8/2)  
著者：メアリー・ポツペンディーク  
トム・ポツペンディーク  
出版社：日経BP

7つの原則

リーン開発の本質  
ソフトウェア開発に活かす7つの原則  
著者：メアリー・ポツペンディーク、  
トム・ポツペンディーク  
出版社：日経BP社 (2008/2/7)

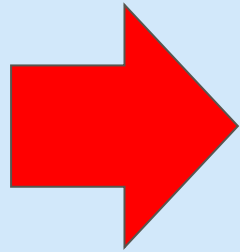
## 2. 2 7つの原則の適用

# 必要な時に必要なだけ適用する。

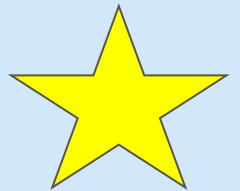


**同時に全部を使わない**

## 2. 3 リーンソフトウェア開発の7つの原則



- 1.ムダをなくす
- 2.品質を作り込む
- 3.知識を作り出す
- 4.決定を遅らせる
- 5.速く提供する



- 6.人を尊重する
- 7.全体を最適化する

出典：「リーン開発の本質」メアリー・ホッパンディーク、トム・ホッパンディーク

# 2. 4 原則 1 : ムダをなくす

＜リーンソフトウェア開発 メアリー・ポペンディーク/トム・ポッペンディーク著より＞

## 7つのムダ

製造	ソフトウェア開発
在庫のムダ	未完成の作業のムダ
加工そのもののムダ	余分なプロセスのムダ
<b>作り過ぎのムダ</b>	<b>余分な機能のムダ</b>
運搬のムダ	タスクの切り替えのムダ
手待ちのムダ	待ちのムダ
動作のムダ	移動のムダ
不良を作るムダ	欠陥のムダ

作らない選択



## 2. 5 作らない選択事例 1

≪中部国際空港様≫ ～ウォーターホール～

空港の業務管理システムの詳細な仕様が決まるのは、2年以上先の開港直前になることがわかった。

開港日に、  
システムトラブルの記事を  
新聞に載せない！

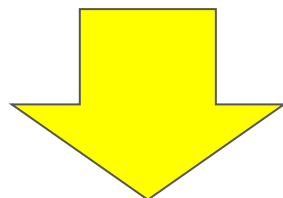
確実に変わらない6割程度の機能だけを  
システム化し、残りの機能はユーザー部門の  
担当者が手計算する。

作らない  
選択

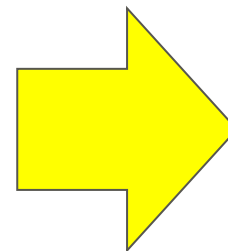
## 2. 6 作らない選択事例 2

≪日野自動車様≫ ～ウォーターホール～ 日経コンピュータ 2005年9月5日号

システム部門には、生産や販売など社内の各部門からさまざまなシステム化案件が寄せられている。すべてに応えていてはヒト・モノ・カネがいくらあっても足りない



年間600件のうちの4割は却下、もしくは延期。  
やるべきことを明確にして、限られたリソースを有効活用する。



作らない選択

## 2. 7 リーンソフトウェア開発の7つの原則



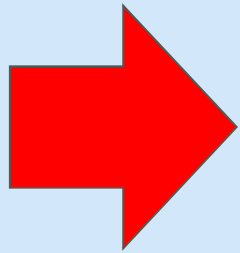
**1.ムダをなくす**

**2.品質を作り込む**

**3.知識を作り出す**

**4.決定を遅らせる**

**5.速く提供する**



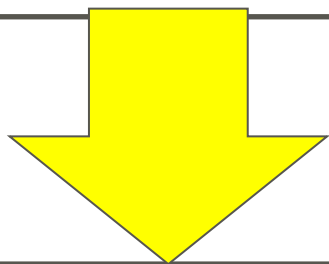
**6.人を尊重する**

**7.全体を最適化する**

出典：「リーン開発の本質」メアリー・ホッパンディーク、トム・ホッパンディーク

## 2. 8 原則 6 : 人を尊重する

- 提案型行動
- エキスパートエンジニアの尊重
- 責任ベースのプランニングと制御



実践方法を選  
択させる

完了基準を  
合意する

**自律 = 自由と責任**



**働きがい**

# 2. 9 現場の声

## アジャイル開発現場アンケート

理由

選択

82% 次もアジャイルを希望

18% 次はウォーターホールを希望

楽しい



成長を実感できる



完成が見える



責任

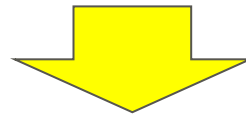
働きがい

理由：複数回答 & 希望別理由回答率

## 2. 10 「トヨタ生産方式」

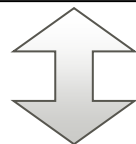
大野耐一著（ダイヤモンド社 1978年） P35

「『ムダ』というものはいったい、なぜ発生するか」  
の問を一つ発することによって、それこそ企業存  
続の条件である利益の意味を問うことにもな  
るし、ひいては人間の働きがいの本質につ  
いて自問自答することになる。」



**原則6：人を尊重する**

- **アジャイル開発をプロジェクトの独自性の1つとして捉え、マネジメントできる。**
- **チームビルディングはPMの1つの要素であり、重要である。**
- **アジャイル開発でのステークホルダーマネジメントは重要であり、PMスキルを発揮する場がある。**



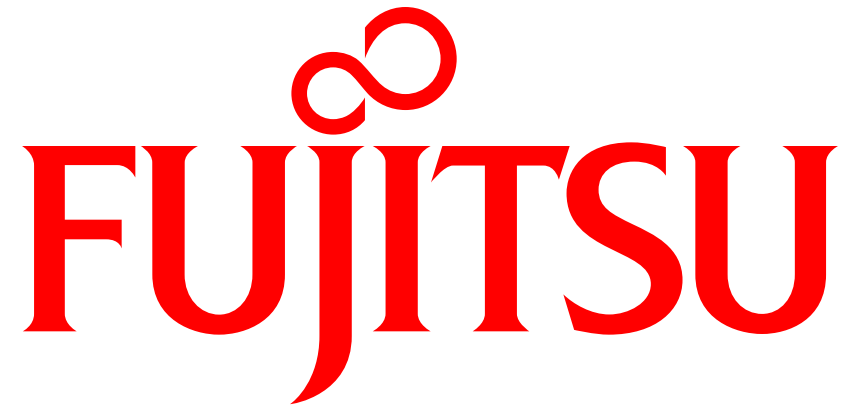
<http://scaledagileframework.com/>

**PMI－ACP：PMI認定アジャイル実践者**

## ■教育を受講していただくことで、プロジェクトをスムーズに立ち上げることができます

役割	詳細	推奨教育
プロマネ	アジャイル開発適用可否を判断する ステークホルダーとの折衝を行なう	概説B
仕様決定者	製品/サービスのビジョンに責任を持つ // 方向性と要件を管理する	概説A + PO
開発責任者	品質や進捗に責任を持つ	概説A+スクラム
中堅開発者	開発作業の中心となる	概説A + TDD
アーキテクト	開発環境を決めて運営する 自動テストやリソース解析を活用する	概説A + CI
スタッフ	組織／プロジェクトを支える	概説A





shaping tomorrow with you